

婦人警官が、公開レイプ・金属バット・トイレフラッシュ・オメクジ・逆レイプ・子宮スカートロ・ゴキブリ姦!



当作品には
蟲やスカート等の
表現が含まれています

DOJIN
R18
成人向け

女騎士の城

脅迫レイプ 婦人警官真輝



私の名前は麻宮真輝（あさみやまき）
警察学校を卒業して間もない、まだ二十歳になったばかりの新米婦人警官です。
未熟者ではありますが、正義を愛する心は人一倍あります。
この街の平和と、住民の笑顔を守るために、身を挺して頑張っていく所存です。



【通行人】「婦警さんおはよう」

【真輝】「はい、おはようございますっ！」

【通行人】「真輝ちゃん今日も美人だね」

【真輝】「あははっ。おだてても何も出ませんよ」

私は今、繁華街のパトロールをしています。

街の人に顔を覚えてもらって、美人と囃し立てられるのは悪い気はしません。

今日も1日平和な日になりそうです。 そう思った矢先、事件が発生したのでした。



【無線】「繁華街の路地裏の雑居ビルで、テロリストが人質を取って立てこもった。周辺の警察官は、大至急繁華街の路地裏へ急行せよ」

その無線を聞いた私は、大急ぎで繁華街の路地裏にやってきました。すでに何人かの警察官と、マスコミが集まっており、騒然としています。そして、ビルの中から銃声と悲鳴が聞こえてきました。

【真輝】「部長、何があったんでしょうか」

【上司】「麻宮か。政府に対立する武装ゲリラが自滅覚悟で暴発しやがった。政府に対する要求が無茶苦茶だ。とても飲める要求ではない」

【真輝】「くっ……！ 人質は無事なのでしょうか」

【上司】「今の所は大丈夫だが、見せしめで何人が殺される可能性がある。そうなる前に何とかしたい所だが……」





そんな時でした。犯人がメガホンで私達に呼びかけをしてきました。

【犯人】「そこの婦人警官と交換で、人質を半分解放してやってもいいぞー！」

この場に婦人警官は私しかいません。

犯人は私と人質の交換を要求してきたのです。



【真輝】「…本当に人質の半分を解放してくれるのですね？」

【犯人】「ああ、本当だ。年寄りばかりではつまらないからなあ。へっへっへっ！」

【上司】「…やめる麻宮。行ったら間違いなくひどい目にあうぞ」

【真輝】「私は警察官になった日から、市民を守るために身を捧げると決めていました。市民の命が助かるなら、どんなひどい目にあおうと構いません」

そして私は、犯人の人質交換に応じ、雑居ビルへと入って行きました。



私が雑居ビルに入ると、銃で武装した男達が、人質数十名に銃を突きつけていました。

【犯人△】「おお、近くで見ると滅茶苦茶美人じゃねえか。スタイルも抜群だし」

【犯人△】「こんな美人に警官やらせとくのは勿体ねえな。AV女優にでも転職したらどうだ？」

【犯人△】「へへっ…こんな美人を最後に好きなように出来るなら、もう死んでも後悔はねえな」

男達は私を見て、好き放題言っています。

【真輝】「…約束通り人質を解放して下さい」

【犯人△】「ああわかってる。ただし条件がある」

犯人のボスはニヤニヤしながら、その条件を私に話しました。

犯人とセックスし中出しさせる事で、一人ずつ人質を解放するという事。

そして、外にいるマスコミを呼び、その様子を無修正で全国放送させるという内容でした。





【真輝】「わかりました。指示に従います」

私は犯人との打ち合わせを追えた後、マスコミにビル内部に来るように指示を出しました。マスコミはいつ自分に銃が向くか分からない状況に怯えながらも、ビルへと入ってきて、目の前のスクリーンを報道するために、私へとカメラを向けました。

【真輝】「私は市警に所属する巡査、麻宮真輝と申します。」

人質の無事を保障してもらう代わりに、私が犯人達を楽しませる事になり、その様子は全国放送で生中継する事になりました。お見苦しい所をお見せする事になりますが、どうか人質の安全のためにご協力をお願いします」

室内にある大型TVに私の姿が映し出され、本当に自分の恥ずかしい姿が全国放送されるのだと、否応無しに実感させられてしまい、膝が震えてしまいますが、私は気丈に振る舞う努力をしました。





【真輝】 「ま、まずは…私の自己紹介をさせていただきます…」

私はそう言った後、スカートの端をつまんで、めくりあげました。犯人の指示により、パンストの下に履いていた下着は脱いでいる状態なので、パンスト越しにうっすらと割れ目が見えてしまいます。

【真輝】 「年齢は二十歳、身長は160、

体重は50、3サイズは上から86・58・87です。

今まで男性とお付き合いした事が無く、男性経験もありません…。その証拠を今からお見せしたいと思います…」

私はそう告げた後、その場に座り込み、カメラに股間を向けました。





私はその場に座るなり、
ストッキングを引き裂きました。
股間部分にほつかりと穴が空いて、
下着をつけていない割れ目が
はっきりとカメラに映し出されます。

【真輝】「み、見えますか……？」

これが私のオマンコです……」

犯人達は面白そうに笑い、人質とカメラの視線が私の割れ目に集中します。

この歳になって毛の生えていない無毛の割れ目が、TVにアップで映し出されます。
私は震える指先を無理やり抑え込んで割れ目に添え、左右にゆっくと開きました。





《くばあし…》

今まで誰にも見せたことのない、
自分でもちゃんと見たことがない、
割れ目の奥がTVに映し出されます。

【真輝】 「み、見えますか…？」

これが私の処女膜です…
これからオナニーしたいと思います…」

処女膜が見やすいように、さらに指で広げると、

処女膜は勿論、クリトリスや尿道までもがTVに映し出されます。

私はそのまま、性器全体が見やすいよう指で広げつつ、

クリトリスや割れ目の内側の敏感な部分を、ゆっくり擦り上げます。





【真輝】「はっ……はっ……」

オナニーなど減多にしないので、
敏感な部分に指先が触れるだけで、
思わず身体を震わせ声が溢れます。
そんな恥ずかしい様子が、眼の前の
カメラに映し出され、大画面のTVで
否応無しに私の目に飛び込んできます。

【犯人】「ひゅ……いい格好じゃねえか」

【人質】「ふ、婦警さん……本当にオナニーしてる……」

犯人は勿論、人質も、食い入るように私のオナニーする様子を見ています。
私は、恥ずかしさと同時に、子宮が熱くなってくるのを感じていました。





《くちゅっ……ぬちゅっ……》

【犯人】「へへっ……濡れてきたな。」

お前処女の癖に、見られて
感じる変態だったのか？」

【真輝】「ち、違う……そんな事……」

私の割れ目は少しずつ湿り気を帯び、

愛液があふれ出し、地面に糸を引きました。

犯人に脅迫されてやった事とはいえ、私がオナニーで

感じてしまっている事が、全国に生放送されてしまったのです。

そんな恥ずかしい様子が、何千万人も視聴者に見られている。

それを想像すると、さらに奥から愛液が溢れ出して止まらなくなります。

そして、充分に割れ目が濡れてほぐれた私は、犯人の命令に従い、体勢を変えました。





私は部屋にあるコンクリートに両手を付き、カメラに向けてお尻を突き出しました。先程よりも、より性器が強調された様子がTV画面に映し出されます。

【犯人】「へへっ…人質のためとは言え、ここまでやるか普通？」

【犯人】「こんな状況で濡れるんだ。

見られるのが趣味の変態露出狂だぜ、コイツ」

犯人達がTVに向かって好き勝手な事を言いますが、私はじっと我慢しました。





私の性器をじっくりとカメラに撮らせた後、犯人の二人が服を脱ぎ、私に近づきます。

【犯人】「これから婦人警官真輝ちゃんの公開処女喪失ショーの始まりだ。TVの前で勃起してるヤツ、ちゃんと見てシコれよ？」

【真輝】「うぐっ……」

犯人の浅黒い勃起したペニスが近づくと、私は無意識に腰を震わせてしまいます。いよいよ犯されるんだ。私が覚悟を決めた直後、男がペニスをねじ込みました。



